

AIMS-Gifu を活用した授業方法の開発と評価(4)

～学生による授業評価～

加藤直樹*1, 村瀬康一郎*2, 興戸律子*3

【概要】組織的な授業改善推進の一方途として広く導入されつつある学生による授業評価を, LMS を中核とした教育支援システム(AIMS-Gifu)の「マスターアンケート」モジュールとして実装した。マスターアンケートでは, 同一のアンケートを複数の授業科目に配布し各科目内での回答結果を逐次集約を可能とするとともに, 配布科目全体の回答状況を把握して全体の集計結果を簡便に得ることを可能とした。

【キーワード】教育メディア, 教育方法, e-Learning, 自学習, 高等教育

1. はじめに

大学における教育内容・方法等の改善は, 組織的取組み (FD) として定着しつつあり, 文部科学省の調査では平成 17 年度に大学の 81% が実施している。学生による授業評価も改善の一手法として定着しつつあり, 71%の大学において実施されている。

授業評価を授業改善に活かすためには, 沖 (2004)が類型化する事前(最初), 中間, 事後(最終)の実施時点や目的に応じた実施回数等も課題となる。細川(2007)は, 中間評価と最終評価を実施し授業改善の有効性を検討するとともに, 実施課題としてマークシート等の方法を用いるものの膨大なデータ処理がついてまわることを指摘している。このデータ集計に要する時間と労力を軽減のためには, 末田ら(2000)はアンケートの作成から実施, 集計を手軽に実施可能な支援システムや, 柴崎ら(2006)の評価調査支援システム(REAS)等が開発されている。

しかし, もとより授業評価は, 授業実施の一連の活動に位置づけられるものであることから, 授業支援を総合的に支援するシステムの一

機能として整備することが操作性や権限処理, 活用普及等の面から適当であると考えられる。

そこで, 本学が整備してきた LMS を中核とした教育支援システムである AIMS-Gifu に授業評価を支援する機能を追加実装することとした。

2. 学生による授業評価の実施

AIMS-Gifu は 2004 年から全学的に導入された教育支援システムであり, Blackboard 社製の LMS により構成されている。

すでに, AIMS-Gifu にはアンケート機能が用意されており, 個々の授業科目(コース)内での担当教員によりアンケートの設定や集計が実施可能となっている。教育学部では 2005 年から本システムを利用して授業評価を実施してきたが, 以下の課題が指摘されてきた。

- (1) 学部共通アンケートを各コース担当教員が複写して利用すること
- (2) 学部全体の集計結果を得るために各コースの結果を手動で複写すること
- (3) 各コースでの回答状況を授業評価担当者等が把握できないこと

*1 KATO, Naoki : 岐阜大学 e-mail= nkato@gifu-u.ac.jp

*2 MURASE, Koichiro : 岐阜大学 e-mail= murase@gifu-u.ac.jp

*3 OKIDO, Ritsuko : 岐阜大学 e-mail= okidor@gifu-u.ac.jp

AIMS-Gifu のアンケート機能は、コース内に独立した機能であるため、同一のアンケートを各コース間で配布・回収するための機能としては用意されていない。

そこで、同一アンケートを複数コースに配布し回収するとともに、実施状況を確認する機能を「マスターアンケート」として整備した。

3. マスターアンケート機能

マスターアンケートは Blackboard のモジュールとして設計した。その機能は、以下のようである。

(1) マスターアンケートの権限処理

マスターアンケートは、特殊な独立コース内で管理する。これにより、当該コースの指導者権限を授業評価実施主体の委員会や学務係等の教職員とすることでアンケートの標準機能を用いた作成から、配布、結果の回収までの権限を付与可能となる。

(2) マスターアンケートの配布機能

マスターアンケート管理コース内で作成されたアンケートは実施内容や時期に応じて複数種類を管理する。配布機能は、アンケートを1つ指定して、複数コースを指定して配布可能とする。

(3) 配布コースでの準備機能

コースへのアンケート配布が完了したことを指導者にメール通知し、指導者がコース内で回答可能となるように準備する。各コースは基本的に指導者が管理しており、学生への回答指示も指導者により実施される。

(4) 配布コースの回答状況把握機能

マスターアンケート管理者は、配布コースでのアンケートの実施、回答経過の状況（回答者数の割合）を逐次確認可能とする。また、必要に応じて指導者にメール連絡を可能とする。

(5) アンケートの回収機能

複数コースに配布したアンケートへの回答結果を一括して回収可能とする。結果は、ダウ

ンロードして分析可能とする。回答データは回答者を特定する情報を含まず、コース ID により科目を区別することは可能とする。

コース名	実施日	回答者数	有効回答率	平均評価	標準偏差	コメント
工学部工学系基礎教育(1)基礎教育(1)	2007-4-17	1	100%	1.00	0.00	
工学部工学系基礎教育(1)基礎教育(2)	2007-4-17	2	100%	1.00	0.00	
工学部工学系基礎教育(1)基礎教育(3)	2007-4-18	55	100%	1.00	0.00	
工学部工学系基礎教育(1)基礎教育(4)	2007-4-18	2	100%	1.00	0.00	
工学部工学系基礎教育(1)基礎教育(5)	2007-4-18	2	100%	1.00	0.00	
工学部工学系基礎教育(1)基礎教育(6)	2007-4-18	2	100%	1.00	0.00	
工学部工学系基礎教育(1)基礎教育(7)	2007-4-18	2	100%	1.00	0.00	
工学部工学系基礎教育(1)基礎教育(8)	2007-4-18	2	100%	1.00	0.00	
工学部工学系基礎教育(1)基礎教育(9)	2007-4-18	2	100%	1.00	0.00	
工学部工学系基礎教育(1)基礎教育(10)	2007-4-18	2	100%	1.00	0.00	
工学部工学系基礎教育(1)基礎教育(11)	2007-4-18	2	100%	1.00	0.00	
工学部工学系基礎教育(1)基礎教育(12)	2007-4-18	2	100%	1.00	0.00	
工学部工学系基礎教育(1)基礎教育(13)	2007-4-18	2	100%	1.00	0.00	
工学部工学系基礎教育(1)基礎教育(14)	2007-4-18	2	100%	1.00	0.00	
工学部工学系基礎教育(1)基礎教育(15)	2007-4-18	2	100%	1.00	0.00	
工学部工学系基礎教育(1)基礎教育(16)	2007-4-18	2	100%	1.00	0.00	
工学部工学系基礎教育(1)基礎教育(17)	2007-4-18	2	100%	1.00	0.00	
工学部工学系基礎教育(1)基礎教育(18)	2007-4-18	2	100%	1.00	0.00	
工学部工学系基礎教育(1)基礎教育(19)	2007-4-18	2	100%	1.00	0.00	
工学部工学系基礎教育(1)基礎教育(20)	2007-4-18	2	100%	1.00	0.00	

図1 マスターアンケートの回答状況

4. マスターアンケート実施

マスターアンケート機能を用いた学生による授業評価は、2007年度前期から教育学部において中間評価として利用を開始している。各授業科目の担当教員は、日常的に利用可能なAIMS-Gifuを用いて学生の回答状況をリアルタイムに集計可能であり、自由記述の確認も容易となることから、実施以後の授業改善への反映も期待できる。さらに、全体の集計結果をAIMS-Gifuの学部コミュニティに掲載することで、担当授業の傾向を比較分析可能とし、授業改善のポイントを明確にすることができると考える。今後は、マスターアンケート機能の活用を全学的に進めることが必要となる。

【参考文献】

- 1) 沖清豪(2004), 授業評価と指導法の改善, 大学の指導法—学生の自己発見のために—, 東信堂
- 2) 細川和仁(2007), 授業評価調査における中間評価の有効性, 秋田大学教養基礎教育研究年報, 1-9, pp.4-12
- 3) 末田貴士, 佐藤聡, 北上始(2000), 授業改善のために行うアンケート実施支援システムの実現, 信学技報, ET2000-61, pp.1-6
- 4) 芝崎順司, 近藤智嗣(2005), Webを利用した評価調査支援システムの開発と運用, 日本教育工学会論文誌, 29(Suppl.), pp.41-44